

住みよいまちづくり情報誌

Vol.51

令和3年3月26日

発行 住みよいまちづくり新莊会
(水戸市新莊市民センター内)
(〒310-0036) 水戸市新莊2-11-2
Tel.029-221-7851

責任者 住みよいまちづくり新莊会
会長 川又 一郎

編集 新莊会広報部
印刷 常磐総合印刷株式会社
題字・坂 俊治

新莊学区の常住人口 世帯数 3,058

男 2,812 女 2,998 合計 5,810 (令和3年2月1日現在)

年齢別人口

0～14才 523 (9.0%)

15～64才 3,259 (56.1%)

【参考値】

65才以上 2,028 (34.9%)

(令和3年2月1日現在)



新莊地区歩く会、水戸城大手門前にて

11月15日(日)、新莊地区歩く会が、快晴のもと、スプロック計画により旧水戸城下において実施されました。参加者は救護2人を含む64人で、9時前に出発し前半登り下りの激しい約5kmのコースを約2時間(休憩含む)掛け、歩きました。

コースは、新莊市民センター出発後、祇園寺前から七曲坂を下って坂下から遊歩道を歩き、五軒小下グラウンド前を通り、気象台わきの急激な高尾坂を一気に登りました。その後は車道を通って三の丸庁舎に至り、弘道館庭園を抜け復元の水戸城大手門前で記念撮影した後、一高敷地内に所在する水戸城薬医門まで歩きました。最後に、大手門及び二の丸角櫓の水戸城跡復元整備について見学する機会を得ることができました。

終了後は、三の丸庁舎周辺にて、準備された弁当による昼食をとり、解散となりました。



新型コロナウイルス感染拡大に伴い新莊地区の諸行事中止相次ぐ

今年度の新莊地区市民運動会及び新莊ふれあいまつり等は、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期すため、中止しました。その中で、歩く会のみは実施することができました。

2月25日(木)、水戸市は令和2年度のほう賞受賞者を表彰しました。新莊地区では、次の方々が永年勤続町内会長・自治会長ほう賞を受賞されました。

◎二十年勤続
青木 實 様(常磐二丁目13)
宮下 明生 様(緑町東部)

◎十五年勤続
島田 秀穂 様(寿町二区)

令和2年度水戸市ほう賞受賞者

川又 一郎 様
(新莊会会長)

2月12日(金)、茨城県市長会は、令和2年度の民間自治功労者を表彰しました。

川又一郎新莊会会長は、多年公共の事業に貢献し地方自治の振興発展に寄与した功績により同功労者賞を受賞されました。

令和2年度茨城県市長会受賞者

コロナ禍における新莊学区避難所

- 一般の避難者…新莊小学校
- 避難行動要支援者等…新莊市民センター
- 保健所等の指示により健康観察期間の方…第一中学校(体育館)
- 体調不良の方…第一中学校(特別教室等)
※校舎入口で案内
- 感染が確認されている方…個別対応
(病院等)

□非常持出品

懐中電灯、普段から飲んでいる薬、ラジオ、呼び笛、カップ、貴重品(現金、通帳、保険証のコピーなど)、ヘルメット/防災ずきん、衣類、洗面用具、筆記用品、保温シート、救急薬品(消毒・マスクなど)、など

□備蓄物資

飲料水(1人1日3ℓを目安に)、非常食(3食3日分を目安に)、ブルーシート、ガムテープ、ロープ、簡易トイレ、トイレトーパー、ロウソク、ライター、ポリ袋、軍手、缶切り、携帯コンロ、ラップ、カイロ、ウェットティッシュ、マスクなど

東日本大震災3.11から10年が経過し、この10年の間に、国内では先月の福島県沖地震など震度6弱以上が27回、震度7以上が4回発生するなど、全国各地で地震が頻発しています。水戸市では、茨城県南部地震(推定マグニチュード7.3)と塩屋崎沖地震(昭和13年発生 同7.8)の再来が想定されており、いつでも起こり得ると言われています。今一度、市の防災マニュアルを再確認し準備するなど、震災に備えましょう。

○地震発生時の行動



非常持ち出し品、
備蓄物資の例

緊急地震速報を確認したり、最初の揺れを感じた段階で行動を開始することが、自分の身を守ることに繋がります。一般手順は次のとおり…①自分の身を守る
②火元を確認 ③ガラスの破

○地震災害への備え

特に現在のコロナ禍においては、避難勧告等の際の、新莊学区の避難場所は、身体等の状況に応じて、右図のように指定避難所の各施設が指定されておりますので注意しましょう。

○新莊学区の避難場所

新莊学区防災マップ(黄色A3版2021.2)により、防災関連施設や避難場所の道順をよく確認しておきましょう。

もう一度、
防災マニュアル等を
確認しよう!!

片など足元に注意 ④津波・土砂災害の危険性が高い地域はすぐ避難 ⑤隣近所の方と声をかけ合う ⑥居住困難、危険な状態で被害の恐れがある場合、電気ブレーカー切、ガス元栓閉の処置を行い避難所へ避難

ようにまとめておきましょう。

□備蓄物資

市では備蓄を強化してありますが、各家庭でも家族構成を考え、非常食や飲料水などを備蓄しておきましょう。

○災害情報の入手

災害時にはいち早く正確な情報を得ることが重要です。市からの情報は次のもので発信されます。

ラジオ、緊急速報メール、防災行政無線、市ホームページ、LINE、市メールマガジン、ツイッター、フェイスブック、ヤフー!防災速報アプリ。これらは、あらかじめ確認しておきましょう。

特に、ラジオは避難情報を提供しており、これを確実に伝達するため防災ラジオの貸与を行っているほか、市販のラジオで受信できるように、FMパルン76.2MHzで放送しています。

○災害時の家族間連絡手段の確認

災害時に電話や携帯電話がつかないときは、「災害用伝言ダイヤル1717」や、「災害用伝言板(インターネットWeb 1717)」を利用します。日頃、家族の電話番号又はメールアドレスを取り出せるようにしておきましょう。

また、災害時でもつながりやすい市民センターの特設公衆電話を利用しましょう。

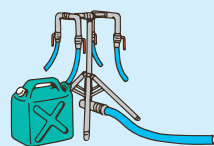
○避難所等防災機能の活用

□備蓄対策

市民センター等の指定避難所には、防災倉庫に様々な備蓄物資を保管しているので、災害時利用しましょう。

□給水対策

新莊地区では、様々な給水槽が



仮設給水所のホース(上) / 協力井戸の標示(下)

備えられているので災害時活用しましょう。

・貯水槽設置場所(市民に飲料水を提供)新莊小学校、県立歴史館・仮設給水所(トラックで運搬してきた飲料水を配布)新莊市民センター

・災害時生活用水協力井戸
市では、災害による断水時に、洗濯、トイレなど(飲料以外)に使用する生活用水として井戸水を提供いただける井戸を登録してま

令和2年度 新莊地区敬老会

令和2年度の新莊地区敬老会は新型コロナウイルスの影響により式典は行わず、記念品の配布のみを実施し、密を避けるため9月18、20日の3日間に分散して新莊市民センターロビーにおいて行われました。出席者は、招待者1,170人中代理を含め1,027人で、約9割の高い出席率でした。



記念品配布の様子

す。日頃から自宅に近い井戸の場所を確認しておきましょう。

※各家庭では応急給水の体制が整うまでの飲料水の備蓄(1日3ℓ/人基準)、水容器の準備や、トイレ水のため風呂のためおきに心がけましょう。

□燃料対策

各家庭では、過去の教訓から車のガソリンは日頃から半分になったら給油するよう心がけましょう。市では災害時必要な施設・専用車の燃料確保に努めています。

□避難行動支援

市では、災害時に自力での避難が困難な方の安全確認や避難誘導を行っています。

その他市の防災対策は、市報(3/1号)や水戸市ホームページ「防災対策」等をご覧ください。不明な事項は市防災・危機管理室(電話029-232-9152)に問い合わせ下さい。

編集部委員

川又健志・塩井雅子・岩淵延子